

## 降雨後の湿害対策とウコンノメイガ等病害虫防除

- 7月上旬からの長雨・日朝不足より葉の黄化が見られます。下記に留意の上、追肥を行いましょう。
- 例年に比べ、ウコンノメイガ等の被害発生が早くからみられているため、必要に応じ防除を実施しましょう。

## 1 排水対策と追肥管理

- (1) 排水溝の手直しなどにより、表面水を速やかに排水する。
- (2) 下葉の枯れあがりや黄化したほ場では、窒素成分で1～3 kg/10aを追肥する。  
追肥は、葉が乾いた状態で行い、肥料ヤケに注意する。
- (3) 冠水・浸水後は立枯れ性病害が発生しやすい。効果的な薬剤防除方法はないので、速やかに排水し病害発生防止に努める。

## 2 病害虫防除

## (1) ツメクサガの特徴と防除について

大豆の新葉や上部の葉を加害し、多発生すると葉が孔だらけになる。幼虫は、葉を二つに綴り、中に糞をため、シャクトリ状に歩くのが特徴。加害確認後、**速やかに薬剤防除**する。



ツメクサガ

## (2) ウコンノメイガの特徴と防除について

- ・ 本年は7月5日頃から確認されており、「里のほほえみ」は「エンレイ」に比べて被害が大きくなることがあるので注意が必要。
- ・ 老齢幼虫は薬剤防除効果が劣るので、若齢幼虫のうちに防除する。ほ場を見回り、葉の半分くらいまで巻いている葉（中齢幼虫の葉巻症状）が散見され始める時期に防除する。
- ・ 7月第5半旬の畝1m当たりの平均葉巻数が8個以上確認したときは防除する。



孵化直後



若齢～中齢



老齢

#### (4) 薬剤防除剤について

「プレパゾンフロアブル5」は防除効果が特に高く、ウコンノメイガが多発生した場合には活用すること。

##### 【適用情報】

農薬名	使用方法	希釈倍数・散布液量	適用病害虫・使用時期	使用回数等
プレパゾンフロアブル5	散布	希釈倍数 4,000 倍 散布液量 100～300 リットル/10a	ウコンノメイガ 収穫 7 日前まで	2 回以内
	無人航空機による散布	希釈倍数 16～32 倍 散布液量 800 ミリットル/10a	ウコンノメイガ 収穫 7 日前まで	2 回以内
アディオオン乳剤	散布	希釈倍数 3,000 倍 散布液量 100～300 リットル/10a	ウコンノメイガ、ツメクサガ 収穫 7 日前まで	3 回以内

※令和2年7月14日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。農薬の使用に際しては、必ず最新の登録内容を確認してください。

お問い合わせ 上越農業普及指導センター作物担当 TEL:025-526-9406 FAX:025-526-4080